第12号
昭和52年4月10日

大阪産業大学校友会報
Osaka Industrial University

発行所　大阪産業大学校友会
（大阪産業大学内）
大東市中垣内3の1の1　〒574
電話(0720)71-1251(内線381)
発行責任者　大阪産業大学校友会
石川信男
印刷所　(株)藤井印刷店
大阪市城東区関目3丁目7-17
電話（06)932－0351(代)

入学を祝し 新入生の諸君へ

会長　石川信男

桜花咲き匂うこの時、地元の近畿をはじめ、全国各地から、私達の母校を目指して入学してこられた諸君を迎え、生駒の木々に囲まれたキャンパスも、今や清新の気に満ち溢れていることと思います。

人間形成の上において、きわめて重要な大学生活を、私達と同じ母校での学校社会の一員として参加されたことに対し、校友会は心から祝福いたします。

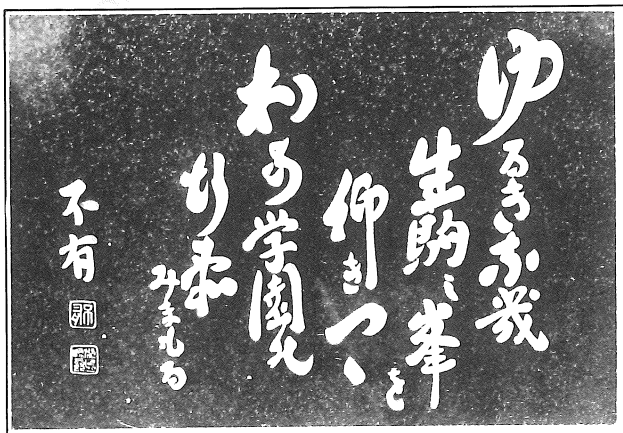
諸君の一人一人は、自分自身の希望と期待を胸に秘めて進学されてきたことと思います。

豊かな教養を身につけ、それぞれの専門分野において研鑽を深めてゆくことが大学生活の基本的使命ですから、既得の知識を生かし、自主的な選択によって単に与えられるだけでなく、自分の血肉として自家薬籠中のものにしあげてください。

また基本的な使命を達成するためには、強健な身体と誠実な心的態度が求められますが、学園に培われてきた「偉大な平凡人たれ」の建学精神と、産業実務者たる「創造的能力の開発」という精神的風土を機能にとり入れ、徒らに他に頼る甘えを除き、自ら鞭うって自ら励む「自策自励」の気持を高めてください。

つづいてお願いしたいことは、大学はその建物もキャンパスも、今ある学術の中身も、すべては建学以来の諸先輩並びに私達の蓄積してきた所産であります。それを諸君に引継いでいるわけですから、諸君は大阪産業大学の大学人として、その盛衰が直接、間接自らにはね返ってくることを胸の内におかれ、母校愛をもってその所産を更に有効に作用するよう発展させてほしいことです。

今後の有意義な学園生活を諸君に期待して歓迎の挨拶とします。



新入生のみなさんと 校友会

新入生の皆さん、御入学おめでとうございます。今日から大学生活が始まりますが、皆さん方は心を新たに胸をわくわくしていることでしょう。

新入生の諸君と校友会のかかわりについて説明したいと思います。

裏面の大阪産業大学校友会会則の第二章第四条にありますように、在学生は準会員となり、卒業と同時に正会員となるわけです。

在学生（準会員）においては、皆さんが体育会および文化会に入部され、そのクラブが優秀な成績を修めて表彰されますと、校友会学生団体に対する助成規則により、助成金（金一封）がおくられることになります。

また、卒業生（正会員）においては、会員同志の親睦、卒業後も母校とのつながりは絶ち切ることなく、学園が将来、発展していくよう見守ろうではありませんか。

そして、年一回の総会と懇親会に参加され、卒業生同志の談合および思い出話に花を咲かそうではありませんか。

各支部におきましても、いろいろの行事に参加して頂き、同窓生、先輩、後輩ともに同じ学舎で勉学に励んだのですから、より親密な関係でもって、良き助言なりを聞き、今後の仕事面および生活面で役立てて貰い、より一層、大阪産業大学卒業生としての誇りをもって頑張ろうではありませんか。

最後に、新入生諸君にアドバイスとしまして、大学生活を長くも短かくもするのは諸君の努力にかかります。ですから、入学と同時に、本日より目的をしっかりと持って、この大学生活を有意義に送り、悔のない大学生活になるように、頑張って下さい。

入試情況報告

昭和52年度の入学試験を終え，実質競争率は下表の通りです。

志願者数は本学始まって以来の8000名の大台に乗り，前年度に比べて，全体で38％の伸びを示した。学科別では，経営学科53％，交通機械工学科Ⅰ部30％，機械工学科Ⅱ部42％，交通機械工学科Ⅱ部18％　そして短期大学部43％と大幅に増えた。機械工学科Ⅰ部と土木工学科には昨年と変動はなかった。

年度別		昭和52年度			51年度	50年度
学科		受験者数	合格者数	競争率	競争率	競争率
経営学科	推薦	1,642	498	3.30	2.07	2.21
	一次	1,881	512	3.67	1.57	1.60
	二次	592	209	2.83	3.16	17.34
	計	4,115	1,219	3.38	2.14	2.40
機械工学科Ⅰ部	推薦	271	187	1.45	1.89	2.41
	一次	372	78	4.77	1.34	2.19
	二次	89	34	2.62	1.67	2.08
	計	732	299	2.45	1.56	2.26
交通機械工学科Ⅰ部	推薦	404	166	2.43	2.26	1.96
	一次	384	92	4.17	1.29	2.14
	二次	118	45	2.62	6.00	2.08
	計	906	303	2.99	1.75	1.97
土木工学科	推薦	217	160	1.36	1.97	2.32
	一次	310	74	4.19	1.31	1.90
	二次	82	32	2.56	1.73	1.81
	計	609	266	2.29	1.62	2.05
機械工学科Ⅱ部	推薦	28	28	1.00	1.00	1.00
	一次	40	40	1.00	1.03	1.00
	二次	27	26	1.04	1.14	1.00
	計	95	94	1.01	1.03	1.00
交通機械工学科Ⅱ部	推薦	62	62	1.00	1.00	1.00
	一次	100	93	1.08	1.04	1.00
	二次	60	59	1.02	1.10	1.00
	計	222	214	1.04	1.03	1.00
短期大学部自動車工業科	推薦	672	414	1.62	1.09	1.00
	一次	263	75	3.51	2.11	1.01
	二次	104	27	3.85	1.19	1.00
	計	1,039	516	2.01	1.20	1.00

※備考：第２，第３志望及び留学生等の合格者は含まず。

温故知新

前田眞正

新入生諸君、入学おめでとうございます。

桜花爛漫の好時節、希望に胸ふくらませて大阪産業大学に入学せられた感動が伝わってくるようです。

諸君の中には、大阪近郊の方も多いでしょうが、はるばる遠隔の地から笈を負うて上阪せられた方もあるでしょう。

そこで、ふと思いおこしたのが、幕末の儒者で詩人でもあり、咸宜園に有能な人材をあつめて教育した広瀬淡窓の桂林荘雑詠諸生に示すその一の詩です。

休道他郷多苦辛　同袍有友自相親
紫扉暁出霜如雪　君汲川流我拾薪

「この詩は、ある学者にいわせると教育の心髄をうがっているとのことです。

はるばる郷里をはなれて学問をしにきたのだから、他郷へきて勉学するのがつらいなどといいなさんな　ここには同じ志でうちあかしあうほどの親しい仲間がおり、お互いに協力し助け合い励ましあってがんばっていこうではないかといったようなことをうたっており、冬の朝の炊事のしたくの場をかりて、厳粛な雰囲気と爽快な気分の中で分担して作業する共同生活の真情がよくあらわれています。

これから卒業までの歳月、しっかりと学問をし、クラブ活動をして、知識や技術を収得し、学生時代にしか培かえない純粋な友情など金では買えないものを養っていただきたいと思います。それが社会へ出られてからも幾多の困難を乗り切る励みとなり、時として俗塵を払う糧となることでしょう。

何はともあれ第一は健康です。どうかしっかりがんばりぬいて下さい。

（工学部講師）

チャイム

綺麗な花には刺があると言う言葉がある。バラは一見しただけで刺のあることがわかる。その刺も存在理由があっていいだろう。筆者の独断で理由を考えて見た。あの刺は、毛虫や青虫の類から花を守るための鉄条網の役をしているのではないか、又、バラを作っている人から聞いた話だが、その刺だけでは飛んでくる害虫から花を守れないので、バラと一緒にニンニクを植えるのが普通だという。

ブンブンがバラの花を食ってやろうと飛んで来て、ニンニクのあの臭いを嗅いで退散するという。いささかまゆつばの感がするが、このバラと同じグループに属する花に桜がある。大学の周辺にも入学式前後には、〝咲いた咲いた野も山も〟と歌い出したくなるような風景が現出する。第二グラウンドの周囲、竜間の籠、関電の横、等々。実に見事に咲き誇るのである。この桜も、やがて芳香を放ってやろうと飛んで来て、ニンニクのあの臭いを嗅いで退散するという。いささかまゆつばの感がするが、このバラと同じグループに属する花に桜がある。大学の周辺にも入学式前後には、〝咲いた咲いた野も山も〟と歌い出したくなるような風景が現出する。第二グラウンドの周囲、竜間の籠、関電の横、等々。実に見事に咲き誇るのである。この桜も、やがて芳香を放って蜜蜂を誘い、蜜を与えるかわりに交配を手伝ってもらい、花びらを落して結実する。この情況が、卒業するまでに少くとも三回は見られるはずである。新入生諸君も大阪産業大学を選んで入学したからには、勉学に、クラブ活動に、友人関係の向上に励んで、初志を貫いてほしい。

諸君の努力を期待する。

（K）

「校友会」について

諸君、入学おめでとう。

校友会、それは何だ？校友会あまり聞いたことのない字だ。この校友会について、少し書いてみることにする。一言で表現すると広辞苑によれば、「母校を中心にその学校の卒業生、職員、生徒などの組織する会」とある。すなわち、高校までの同窓会のことである。

しかし、大学の校友会と高校の同窓会とは若干違う。校友会と同窓会の違いについていろいろあるが、明確なことは、大学の校友会は最終学歴としての組織である。高校の同窓会は、大学進学率が40％にもなろうとしている現在では、通過学歴としての組織である。個人の経歴に最終学歴しか書かないことからしても、社会的な位置づけは大きい。

このことは、諸君のほとんどの者が、大阪産業大学を最終学歴（若干名大学院に進学する）として社会に巣立ってゆくはずである。

社会人となれば、日本の社会においては、良きにつけ、悪しきにつけ、学歴・学閥が作用しているのが、現実である。このような現実社会の中で卒業後の組織としての校友会の果す役割は、重要な側面をもっている。

流動する一九七〇年代後半において、学歴社会が続くとはかぎらないが……。

しかし、諸君の卒業後の大阪産業大学校友会の果す役割と使命は、確なるものとしなければならない。

その役割と使命は何か！その答をだすのは、時間が充分ある。四年後、又は、二年後の卒業時に、その校友会の「役割と使命」について諸君の提言をまっている。

（S）

目標をもって

御入学おめでとうございます。推薦、一次、二次の厳しい試験に合格され、新たなる希望と抱負を持って、入学式に臨まれたことと思います。

私も、本学八期生として、卒業し、早や、一年を過ぎました。今、入学当時のこと、学生時代のこと、などを思い出しながら、皆さんにお話したいと思います。

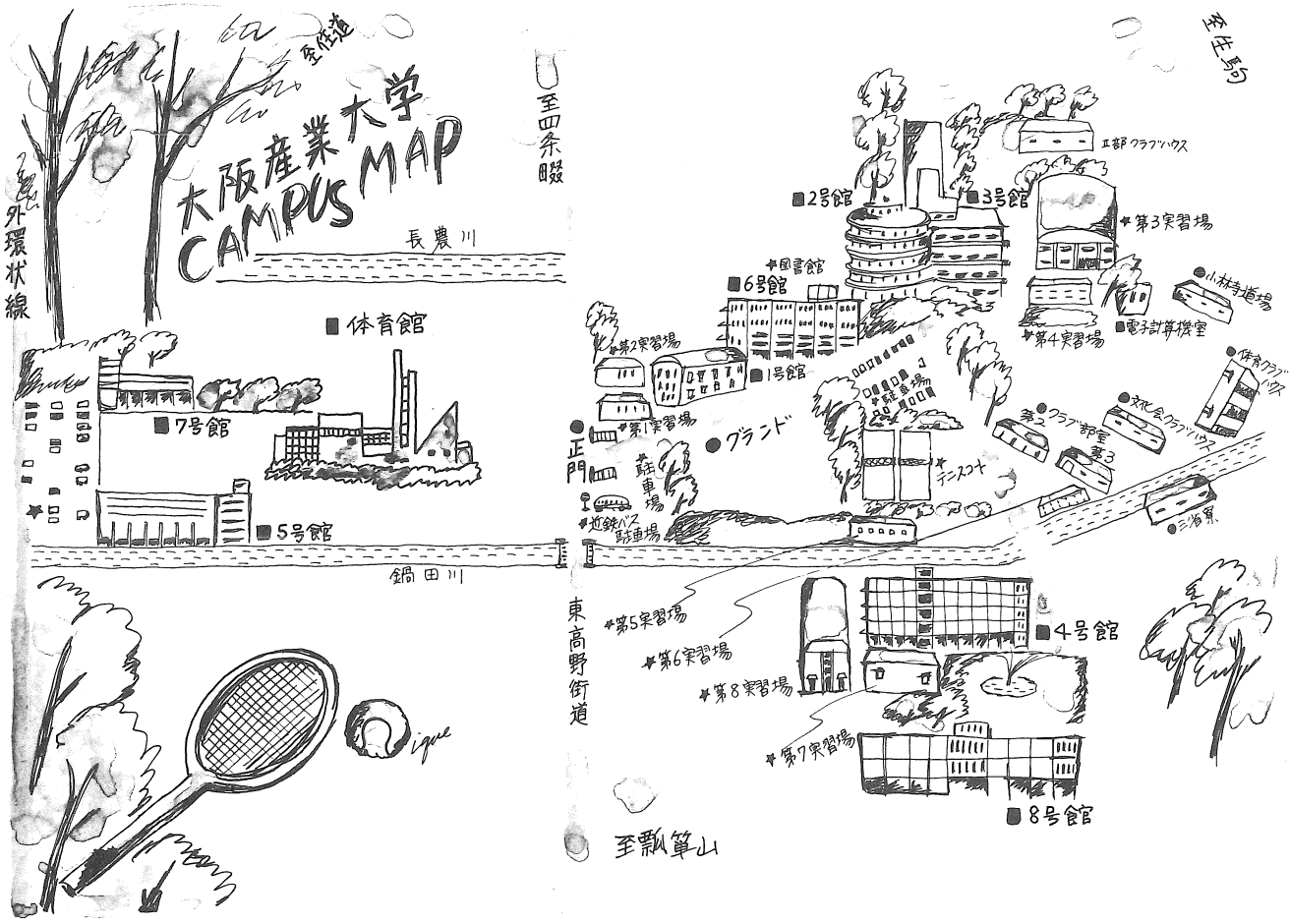
私は、当大阪産業大学工学部に入学して、何を勉強し、何になろうかと目標を捜しましたが、当初、四年で卒業することを一つの目標にしました。そして在学中に新たな目標の転換を計りました。目標があったとしても、その道に歩まず、惰性的に学生生活を送り、失敗して退学して行く先輩・同輩・後輩を見ました。これは目標の転換がないために、学生生活をダメにしてしまったと言っても過言ではないと思います。目標というものは、非常に見つけにくいものですが、当初は、四年で卒業するという目標を置き、在学中に新たな目標の転換を計ればよいと思います。私も、本学八期生として、卒業し、早や、一年を過ぎました。今、入学当時のこと、学生時代のこと、などを思い出しながら、皆さんにお話したいと思います。

II部に入学された皆さんも、今の職場を通じて、勉学を行うという目標、または卒業して新たな職場への踏台としての学生生活を送ってほしいということです。それには、まず定職についてほしいということです。職業が不安定であると、どうしても目標が決まりにくいものになります。

また、この目標に向かうには、大学生としての勉強方法、姿勢などを、自分に適した理を知り、学ぶこと以外にはない。そして、勉学の機会を多く作り、諸先生方と交流を持ち、成果の大小にこだわらず継続することを望みます。

「目標」、「生き方」、私もこの一つについて追求しております。皆さんも、私といっしょに、突き進んでみようではありませんか。

（上垣准三）



大阪産業大学校友会会則（抜粋）

第一章　総　則

第1条　本会は大阪産業大学校友会と称する。

第2条　本会は会員相互の親交を深め智徳を増進し併せて学校法人大阪産業大学発展に貢献することを目的とする。

第3条　本部は大阪産業大学内に置き会務を事務局で処理する。事務局は事務局長と職員をもって事務処理を行う。詳細については別に定める。

支部は各都道府県毎に置く。但し必要あるときは代議員会の承認を得てこの他に置くことができる。会員少数のため支部としての構成ができないものは隣接支部に合体するものとする。

第二章　会　員

第4条　会員は次の三種とする。

「正会員」大阪交通短期大学、大阪産業大学、大阪産業大学短期大学部の卒業者。但し学校に在籍したことのあるものにして、代議員会の決議を経て正会員とすることができる。

「準会員」大阪産業大学、同短期大学部に在学するもの。

「特別会員」現職の教職員並びに母校学園の現職の理事、評議員、旧職員及び幹事会で認めたもの。

★　★　★　★

学生団体に対する助成規則

第1条　この規則は大阪産業大学の体育並に文化の発展に多大の貢献をなし、他の学生の範となる団体に対して助成することを目的とする。

第2条　助成の対象は、本学学生課に登録されている団体とする。但しここでいう団体とはクラブをいい、独立団体、同好会同志会、研究会その他のものは含まない。

第3条　助成クラブの選考及び助成金額は、年2回幹事会で決定する。但し会長が幹事会で認めた場合はこの限りでない。

第4条　クラブが不祥事を起したときは、期限を限り選考の対象から除外する。

付　則　①この規則は48年1月18日から施行する。

②この規則の改正は幹事会で行う。

編集後記

●あわただしい編集であった。精いっぱい（？）やったつもり、形だけは何とかなったものの、素人編集の悲しさ、どうも映えない。

●先号には小生の写真がでかでかとでてしまった。それもウイスキーの水割りを飲っているところ。公にさらすにはちょっと……。事前に一言ほしい。心の準備もいる。スティーブ・マクィーンであれば、著作権侵害で訴えられ、数億円を請求されるところ、編集委員の一人でもあることだし、今回だけは大目に見て、許すことにする。

●静かな春休みもあとわずか。本紙ができ上がるころには、八つの校舎に人があふれ、片田舎の大都会の様を呈する。もうしばらく、静かにしていたいものだが。

（T）

機関紙発行部
編集委員メンバー
◎真田卓克（12期）
馬込正勝（産2期）
田中武雄（産3期）
金丸勝春（産4期）
大久保修（産5期）
太田充紀（産7期）
西　博行（産8期）
上垣准三（産8期）